

(社) 日本コンクリート工学会四国支部
第7回「フライアッシュコンクリートの耐久性評価研究委員会」議事録(案)

1. 日 時：平成25年3月1日(木) 13:30~17:00
2. 場 所：徳島大学工学部建設棟3F大セミナー室
3. 出席者：上田委員長，牛尾，高野，長江，原田，松田，横井，渡邊，橋本，五藤，唐渡，馬越，岡崎，横田，三浦，塚越の各委員，石井，谷脇，下岡(オブザーバー)
4. 配布資料：
 - 7-0 (社) 日本コンクリート工学会四国支部
第7回「フライアッシュコンクリートの耐久性評価研究委員会」議事次第
 - 7-1 (社) 日本コンクリート工学会四国支部
第6回「フライアッシュコンクリートの耐久性評価研究委員会」議事録(案)
 - 7-2 フライアッシュコンクリートの耐久性評価研究委員会報告書
 - 7-3 耐塩害評価および物質移動抵抗性評価
 - 7-4 フライアッシュコンクリートの耐塩害性に関する検討
 - 7-5 フライアッシュⅡ種を細骨材補充材として利用したコンクリートに関する研究
 - 7-6 応用技術 地盤改良材
 - 7-7 第3章 普及検討WG
 - 7-8-1 四国内のFAコンクリートの普及状況に関するアンケート調査結果
 - 7-8-2 二次製品工場へのアンケート結果
 - 7-9 フライアッシュコンクリート施工実績
 - 7-10 普及促進のためのシナリオ -耐久性向上&コストダウンを可能とするFAコンクリートとは-
 - 7-11 FA使用コンクリートの試験開始材齢が異なる凍結融解試験結果について
 - 7-12 フライアッシュコンクリートの耐久性評価と普及に関する講習会

5. 議 事：

(1) 委員長挨拶

上田委員長より，第7回研究委員会開催にあたっての挨拶があった。

(2) 前回議事録の確認

塚越幹事長より，資料7-1に基づいて，前回議事録が通読され了承された。

(3) FA使用コンクリートの試験開始材齢が異なる凍結融解試験結果

牛尾委員より，資料7-11に基づいて，FAコンクリートの耐凍害性に及ぼす材齢の影響について試験した結果について説明があった。

(4) フライアッシュコンクリートの耐久性評価委員会報告書全体の方針

上田委員長より，資料7-2に基づいて，本委員会報告書の概要について説明があった。

(5) WG1(耐凍害性および物質移動抵抗性評価)の報告書執筆状況について

岡崎委員より，資料7-3に基づいて，WG1で分担する第1章の概要について説明と，愛媛大学で実施したFAコンクリートの細孔構造に関する研究成果の説明があった。

上田委員長より，資料7-4に基づいて，FAの混和がコンクリート中のCl⁻浸透速度，鉄筋発錆限界Cl⁻濃度，鉄筋腐食速度に与える影響について検討した結果について説明があった。

(6) WG2(フライアッシュの有効利用法に関する検討)の報告書執筆状況について

横井委員より，堀井WG2主査からのメール連絡内容に基づいて，WG2で分担する第2章の概要について説明があった。

引き続き，横井委員より，資料7-5に基づいて，FAⅡ種を細骨材補充材として利用したコンクリートに関する研究について説明があった。

橋本委員より，資料7-6に基づいて，FAのセメント系固化材の代替利用に関する研究，および再生骨材を用いたFAコンクリートの強度発現性状に関する研究について説明があった。

(7) WG3(四国内におけるフライアッシュ利用の現状に関する調査)の報告書執筆状況について

橋本WG3主査より，資料7-7に基づいて，WG3で分担する第3章の概要について説明があった。

石井委員より，資料7-8-1，7-8-2に基づいて，それぞれ，四国内のFAコンクリートの普及状況に関するアンケート調査結果と，二次製品工場へのアンケート結果の概要について説明があった。

牛尾委員より，資料7-9に基づいて，フライアッシュコンクリートによるダム施工実績についての

説明があった。

高野委員より、資料 7-10 に基づいて、普及促進のためのシナリオについての説明があった。

(9) 今後の予定

本委員会報告書を年度内に作成するにあたり、各 WG にて報告書原案を 2013 年 3 月 25 日中までにまとめ、上田委員長まで報告する。

見出し等の調整、フォーマットについては後日、上田委員長よりメール連絡がある。

上田委員長より、資料 7-12 に基づいて、本委員会の成果報告会を兼ねた、フライアッシュコンクリートの耐久性評価と普及に関する講習会案についての説明があった。これにより、2013 年 7 月 25 日(木)に徳島大学工場会館での開催予定とすることが確認された。

報告者：塚越， 以 上